

「水俣病」の授業を新聞で（社会科）

＝ 熊本県熊本市立城西小学校 教諭 村上 浩一

一、「水俣病」という言葉

「水俣病」という言葉には、様々な意味が入っているように思う。例えば、次のようなものだ。

環境問題 国・県等の施策	人権（差別）問題 人々の生きざま	公害問題 等々	裁判	水産業
-----------------	---------------------	------------	----	-----

日本の発展を支えたのは、世界一の工業力だった。そのお陰で、我々は豊かな生活を享受された。しかし、その「裏」では、誰かが環境汚染を被らざるを得なかった。その一つが「水俣病」である。「正」の遺産ばかりではなく、「負」の遺産をこそ授業していかなば、将来の展望は開けないだろう。

さて、その水俣病問題は公式発見（昭和31年）から40年たった昨年（平成8年）に「和解」をみた。しかし、「解決」はしておらず、「継続」中なのである。右記のような問題も含め、左記のようなことが新聞報道されている。（ここで示す新聞記事は、全て地元の熊本日日新聞であることを断っておく）

地域住民の「もやい直し」 組織発足の動き （平成9年8月現在）	仕切り網撤去の問題 生徒による差別発言問題	新たな運動組 金融支援の問題等々
---------------------------------------	--------------------------	---------------------

すでに、熊本県知事の水俣湾「安全宣言」（平成9年7月29日）に基づく「仕切り網」（湾内の水銀汚染魚の拡散防止のため、昭和49年に設置された網）撤去が開始された（同年9月末で工事完了予定）。

このように、水俣病問題は、現在進行形であり、新聞記事を頼らないと授業は不可能とも考えられる。そこで、「最近」の新聞記事を使った「水俣病」の社会科授業を考えてみた（レベルを上下して、小中学校両方で可能）。

二、授業の実際（4時間計画＝小学5年）

ねらい

<p>高度経済成長時代の工業生産により、廃棄物が自然環境を破壊し人間生活を脅かす公害（水俣病等）へと発展していったことを知り国民全員で「解決」していくことが必要であることを理解する。</p>

「水俣病」の授業（2 / 4時間）

〔第1時〕

資料1・2（時間をおいて順に提示）の網の画像をOHPで投影して問う。

これは、何をしているところだと思いますか。

正解は告げずに、資料1の地図を拡大プリントして配布する（地図帳も使用）。

この写真は、次の場所（プリント）で行われている作業です。何をしているところか、もう一度考えなさい。

「水俣病」の学習をしていくという、動機付けをしていく。

これは、仕切り網と言って、水俣湾を取り囲む全長約2kmの網を取り払おうとしているところです。では、なぜ、この網で水俣湾を仕切ったのですか

ここから、水俣病の原因、経過、結果等を学習していく。資料集や教科書、並びに新聞記事等を使って全般を学習する。

チッソのヘドロ（水銀）垂れ流し	湾内外の魚の汚染	自然界
の異常から人間界へ	水俣病の公式発見	病状
グラフや水俣病年表の読み取り	裁判	患者分布等の
	差別	その他

〔第2時〕

前時の復習をし、原因、経過等を振り返る。

熊本県の広報（8/26の新聞記事＝資料3）を示し、湾内の「安全宣言」についての内容を理解する。

熊本県は、なぜ「安全宣言」をしたのですか。ノートに箇条書きしなさい

資料2・4の文字資料を渡し、読んで聞かせる（中学生ならそのまま配布する）場合によっては、意味も簡単に説明する。同時に、資料5・6の画像資料も提示する。

これらの新聞記事や今までの学習をもとにして、考えて下さい。皆は、仕切り網を取り払うことに賛成ですか、反対ですか。又、その理由もノートに書きなさい。

ここで、討論もしくは、ディベートをしていく。こうすることで、「水俣病」のさらなる理解につながっていくと考える。そして、この過程で様々な生々しい意見が出されてくるかもしれない。

次の発問で「水俣病」の授業のまとめとする。

水俣病は、人々から何を奪い取っていったのでしょうか。思いっただけ、ノートに書きなさい。

予想される答えとして、次のようなものが考えられる。

- ・自然 ・生活（仕事） ・家族 ・生命 ・体（健康） ・人生
- ・海 ・魚（食料） ・人々の結びつき ・自由 ・その他

三、インターネットの出現

全国新聞は別としても、地方の新聞では、「水俣病」についてこれほど大きくは報道されないのではなかろうか。そうになると、熊本以外の地方では新聞に頼ることも不可能になるのかもしれない。水俣病問題は複雑だし、先程も触れたように「現在進行形」なのである。

地元新聞では、詳しい情報が入手できる。例えば、次のキーワードを使って授業することもできた。

「水俣病は、人が人を人と思わなくなった時から始まった」（昭和62年12/21のコラム）というのがあります。1番目（2・3）の人とはどんな人ですか。

新聞社は、節目の年や問題の発生した年に「特集」を組むことがある。こうい
うので、教材研究をすることができる。

では、その地元でないとできないかというと、そうでもない。インターネット
が出現してきたからだ。熊本日日新聞のホームページ（「熊本グリーンページ」
= アクセス先 <http://www.kumaniichi.co.jp>）を見ると、資料7のような情報を入手することができる。「水俣病百科」という項目があり、いろいろなリンク先もあって、たくさんの情報を見ることができるようになっている。

これからは、新聞そのものとインターネットによる新聞閲覧も考えていく必要
がありそうだ。